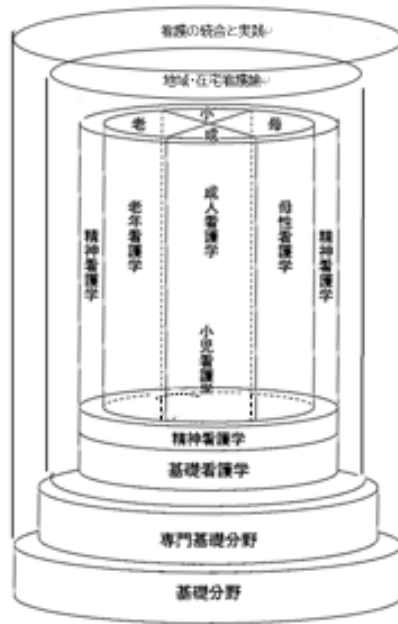


【カリキュラムデザイン・カリキュラムポリシー】



1 年次からディプロマポリシー達成において、医療職者として身につけるべき態度や専門的な知識・技術を段階的に学べるようカリキュラムを設定している。

基礎分野では看護を学ぶ上で必要な、人間や人間の多様性、生命の尊さを理解し、尊厳を守る姿勢を身につけられるよう科目設定をし、すべての学修の土台としている。

専門基礎分野では、医学的知識を身につけるための科目設定を中心としたカリキュラムとしている。その中でも段階的学修として、解剖生理学や細胞生物学、微生物学など基礎的知識から、病理学、疾病論といった専門的知識、それを踏まえた対応へと移行できるようなカリキュラム構成としている。

専門分野では、基礎分野・専門基礎分野、さらに基礎看護学を土台とし、それぞれの看護学を学ぶカリキュラム構成としている。看護については「対象のもつ力を最大限発揮できるよう支援する」ことを基本とし、対象のセルフケア能力を踏まえたうえで問題解決思考やウェルネス思考で考えさせるようにしていく。また、地域・在宅看護論は成人・老年・小児・母性・精神看護学の土台となる、地域で暮らす人々の健康を守るための看護や地域包括ケアシステムにおける看護を学び、様々な対象への看護につながる科目であるため、土台でありながら全体を包括する看護を学ぶ構成としている。さらに国際看護や災害看護、地域包括ケアシステムなどを推進するうえで必要な力として多職種連携やマネジメント力を学ぶ科目を設定している。

看護を実践するにあたり、知識の理解にとどまらず、それを活用する能力（技術や対応力）の育成が不可欠であることから、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、学生自らで考え、行動できるよう 1 年次から臨地実習や学内でのシミュレーション学習が効果的に進められるカリキュラム構成となっている。また臨地実習や学内演習では知識・技術の習得はもちろん、看護職者としての姿勢・態度を学ばせるよう、評価にも加えている。